

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その53

## じざかい 地境の柿

J R尾登駅から喜多方市側へ約400m行った地点の磐越西線沿いに町の天然記念物に指定されている「地境の柿」があります。樹高約5m、幹周り約2.2mのマメガキで、秋には直径2cmほどの小さな柿がたくさん実ります。

この柿の木は生えている場所の字名「地境」からも分かるように、永禄の頃(1558～1570年)、喜多方市高郷町夏井の赤城氏と上小島に居館があったとされる成田氏の領地の境目に目印として植えられたものと伝えられています。この言い伝えが正しいとなると、樹齢は約450～460年ということになります。

この頃の歴史的出来事として、天正6年(1578)に野沢の大槻太郎左衛門政通が会津領主芦名盛氏に対し反乱を起こし、成田氏、赤城氏とも大槻氏に味方しましたが、赤城氏はやがて反旗を翻し、芦名氏のもとに走ることとなりました。

その後、近代になってから、この柿には鉄道敷設と県道工事の時に2度伐採の話が持ち上がりました。しかし、由緒ある柿の木を惜しみ、所有者や地元の人たちが保存を望んで力強い運動を起こしたことにより、伐採を免れたという歴史もあります。

今は主幹の大部分が空洞化し、樹皮も瘤化していますが、強靱な生命力で長い風雪に耐え抜き、風格に満ちたまれに見るマメガキの古木で、貴重な文化遺産と言えます。



地境の柿

## 今月の表紙

今月は、8月6日から3日間に行われた常楽寺での七夕ライトアップより。このイベントには、2年続けて中止となってしまった歴史ある七夕まつりを、違う形で将来へ繋いでいこうという町商工会青年部の皆さんの思いが込められています。

(11ページに関連記事)

## 編集後記

57年ぶりに開催された東京オリンピックで盛り上がった今年の夏。しかし、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、帰省等が自粛された寂しいお盆となりました。

今月号で取り上げる予定だった2年分の成人式も延期に。開催時期は未定ですが、開催された際には人生の節目を迎えた若い世代の皆さんの様子を、広報にしあいづで紙面いっぱいにお伝えしたいと思います。(秦)